

包装基礎コースの特徴

- ❶わが国唯一の包装人材養成のための体系的短期間入門コース
- ❷わが国包装、流通界の権威者・専門コンサルタントによる充実した講師陣
- ❸総合的、体系的、有機的に関連付けられたカリキュラム
- ❹具体的な事例を取り上げた内容

* 包装管理業務に初めて従事される方にも総合的な包装の基礎を理解・把握して頂けます。



公益社団法人日本包装技術協会 各種研修活動のご案内

■人材育成コース

- ❶包装新人研修コース（4月開催）
入社1～2年目の新人を対象に初歩の一般的な包装基礎知識の習得を目指します。
- ❷包装基礎コース（5月開催）
入社3年目以降、または新たに包装分野に就かれる方を対象に、包装の全ての分野にわたり短期間習得を目指します。
- ❸包装管理士講座（7月開催）
包装基礎コースの内容より一歩踏み込んだ広義の専門知識の習得を目指します。一般講義、グループ討議、ケーススタディ等合宿を通して交流親睦を図ります。
- ❹包装専士講座（6月開催）
専門分野の深度化と高度化を目指します。輸送包装・食品包装・包装材料・医薬品包装の4コースを開講予定。

■専門別人材育成コース

- ❺フレキシブルパッケージコース（11月開催）
- ❻食品包装コース（2月開催）
食品包装に必要な知識と最新情報について計4回講義を行います。
- ❼緩衝包装設計実践コース（11月開催）
緩衝包装の目的、力学基礎、設計技法を実際の緩衝設計プロセスに沿いながら解説します。

⑧段ボール包装設計コース（2月開催）

主に初心者を対象に段ボールの特性を学び、実習時に段ボール箱を作成します。

■時事テーマ別講演会

- ⑨化粧品包装セミナー（7月開催）
化粧品包装のデザイン、新技術、包材、化粧品業界の動向についてプログラム編成します。
- ⑩包装材料セミナー（1月開催）
新包材・開発事例・包装資材にまつわる問題や法律の説明、素材別マーケット動向について紹介します。
- ⑪包装近未来シンポジウム（3月開催）
グローバル戦略・サステナビリティ社会・包装新技術・変わる消費者の動向を探る事を目的として開催します。プログラム後半にパネルディスカッションを行います。
- ⑫医薬品包装セミナー（3月開催）
医薬品包装の法規、新技術、包材、医薬品業界の動向についてプログラムを編成します。

お申し込み方法

- ❶当会ホームページよりお申し込み願います。
- ❷申し込まれた方には後日受講料請求書をお送りします。受講料請求書記載銀行へ開催前日までに銀行振込にてお支払い下さい。
- ❸テキスト（資料）は会場でお渡しします。受講者以外にはテキストをお分けすることは出来ません。
- ❹開催1週間前からの受講料の払い戻しは致しません。申し込まれた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。※個人会員の方は代理出席は不可です。

第59回包装基礎コースの参加申し込み方法について

今年度より、包装基礎コースのお申し込みを、ホームページからのみの受付とさせていただきます。
お手数ですが、当会ホームページをご覧の上、お申し込みページより、参加登録を頂きたいお願い申し上げます。

URL: <https://www.jpi.or.jp/index.html>

第59回

JPI包装人材育成コース

包装基礎コース

包装の全分野における体系的短期間入門及び実践講座

■開催日：2026年5月19日(火)～22日(金) 全4日

■受講対象：入社3年目～新たに包装分野に携われる方

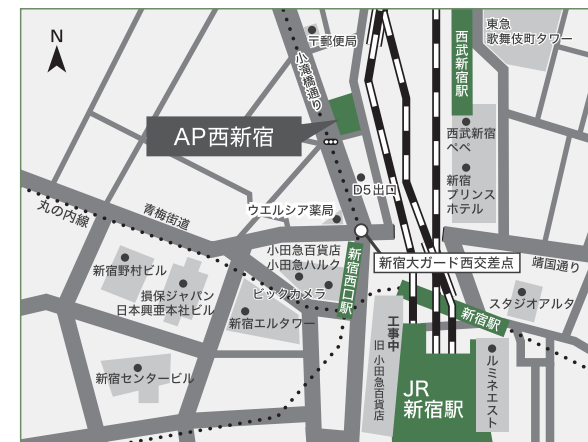
■主催：公益社団法人日本包装技術協会

ご受講のご案内

包装基礎コースは、当協会における教育活動の一環として位置付けられ、各社の社員教育、また管理職の方々の体系付け等に利用されております。更に包装管理士講座の前段としての意味から、組み合わせて受講される方も多くなっております。50年にわたり継続しております事は、当コースが会員会社はもとより、関係各位から教育の一環として認められ、利用されてきた事に他なりません。従来同様、包装の基礎知識から昨今の諸問題に至るまで全般を体系化したプログラムを編成しておりますので、この機会に多くの方々に興味を持ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

開催要領

- 日時 2026年5月19日(火)～22日(金) 全4日
- 会場 AP西新宿
東京都新宿区西新宿7-2-4 6F,N,O,P
- 定員 90名（先着順受付、定員になり次第締め切ります）
- 受講料 JPI会員：72,600円（消費税10%・テキスト代含む）
一般：83,600円（消費税10%・テキスト代含む）



受講対象

本コースは包装や物流に関する専門知識の普及を目的として開講します

- 基礎知識をさらに深め、体系づけたい方
- 商品企画・開発に携われている方
- 包装設計を担当される方
- 近年中に『包装管理士講座』を受講される方

お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階
TEL. 03-3543-1189／FAX. 03-3543-8970
e-mail:satou@jpi.or.jp
協会ホームページ:<https://www.jpi.or.jp>

*受講申込者には必ず受講料請求書をお送りします。
お申し込み後、2週間以上たってもお手元に届かない場合には、当会までお問合せ下さい。

個人情報の取り扱いについて

- 1.個人情報は「第59回包装基礎コース」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
- 2.受講申込みにより、ご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示、提供することはありません。

第59回包装基礎コース

●日程と主な内容●

第1日目 5月19日(火)		
10:00～11:50	13:00～14:40	14:50～16:30
●包装概論と包装技法	●ガラスびん・金属缶・プラスチック容器の基礎	●プラスチックフィルム
1. 包装産業の規模	ガラスびん・金属缶・プラスチック容器の原材料の特徴、利点、欠点及び用途と製造法、環境対応について説明する。	1. 基本的な包装の働き
2. 包装の定義と分類		2. プラスチックフィルムについて
3. 包装の役割と包装設計	1. はじめに 1) 包装と容器の関係 2) 容器に求められる機能・役割	3. フィルムの主な製造方法
4. 包装形態の種類と用途		4. フィルムの種類と特徴 基材フィルム／シーラントフィルム
5. 品質保持・機能性材料	2. ガラスびん 1) 原材料の特徴 2) 利点と欠点 3) 用途および製造方法	5. 包装用フィルムの加工 印刷加工／ラミネート加工
6. DX化（デジタル印刷他）		6. フィルムを使用した主な包装形態 製袋機／包装機
7. 環境配慮	3. 金属缶 1) 原材料の特徴 2) 利点と欠点 3) 用途および製造方法	7. 環境配慮への取り組み
講師 大日本印刷株式会社	講師 アサヒビール株式会社	講師 ユニチカ株式会社
研究開発・事業化推進センター事業開発本部 食とヘルスケア事業開発ユニット開発第3部 部長 多久島 和弘 氏	パッケージング技術研究所 (包装管理士) 冨野 義孝 氏	包装フィルム統括営業部 市場開発グループ 主任部員 (包装管理士) 鈴木 知治 氏

第3日目 5月21日(木)		
10:00～11:50	13:00～14:50	15:00～16:50
●段ボール	●輸送包装设计	●輸送包装の実際
1. 段ボールの生産量(世界・日本)	物流ハザードは「輸送・保管・荷扱い」過程で生じる「振動・衝撃・圧縮・温湿度」による損傷リスクであり、物流ハザードを正しく理解することが、正しい輸送包装设计につながる。	1. 包装貨物の物流
2. 包装材料の中の段ボールの比率		2. 輸送・荷役・保管手段
3. 段ボールの種類	1. 物流ハザード	3. 輸送環境
4. 段ボール箱の構造		4. 包装貨物試験法
5. 段ボールが箱になるまで(貼合)(印刷)(抜き・接合)	2. 自由落下運動	5. 輸送包装の役割
6. 段ボールの特徴(メリット)	3. 輸送振動	6. 輸送包装に関する法規制
7. 段ボールの基礎物性と強度	4. 積載荷重	7. 輸送包装例
8. 包装試験の種類と方法	5. 包装设计に必要な値	
9. 段ボールの安全率	6. 輸送包装设计のプロセス	
10. 段ボール箱の設計(基本設計)	7. 包装貨物試験	
11. 段ボール箱のデザイン		
12. CADによるデジタルデータ運用		
13. 特殊段ボール		
14. 段ボールとリサイクル		
講師 王子コンテナ株式会社	講師 株式会社 石野製作所	講師 MDロジス株式会社
営業本部 CS推進部 設計・デザイン室 主幹 (包装管理士) 門田 光史 氏	専務取締役 (包装専士) 高橋 二郎 氏	物流戦略統括部 物流技術部 パッケージエンジニアリンググループ・主管 (包装専士) 荒川 浩司 氏

第2日目 5月20日(水)		
10:00～11:50	13:00～14:50	15:00～16:50
●紙系の容器・包装の基礎	●フィルム包装材料における「バリア」	●食品包装設計の基本
みなさんの身近にある「紙」という素材、意外と知らないことが多いと思います。今後、包装業界で長く仕事をするにあたり、知っておくべき「紙」の特徴を解説します。	フィルム包装内の内容物の劣化防止（賞味期限／消費期限の保持）は、包装材料のバリア性能によるところが大きい。本講義では、内容物に影響を及ぼす様々な要因と、それに対するフィルム包装材料のバリア性能について解説する。	1. はじめに
		2. 食品包装設計の基本的な考え方 ・包装の機能、定義 ・安全衛生、サステナビリティ
<講義内容>	1. 内容物に影響する遮断すべき要因	3. 食品包装設計の進め方
		4. 食品包装開発の事例紹介 ・品質保持包装 ・ユニバーサルデザイン包装 ・環境対応包装
1. 紙素材の特徴と紙の種類	2. 各フィルム包装材料のバリアに関する性能	5. まとめ
2. 主な紙容器・包装の形態		
3. 最近の開発事例	3. 内容物保存のための方法	
4. 環境対応のとりくみと課題	4. バリアフィルム等の最近事例	
	5. バリア関連のデータ集	
講師 日本製紙株式会社	講師 ZACROS株式会社	講師 雪印メグミルク株式会社
紙パック営業本部 紙パックグローバル営業統括部・ 主席技術調査役 (包装専士) 野田 貴治 氏	研究所 インキュベーションセンター 探索・企画グループ／上席主任研究員 (包装専士) 小野 松太郎 氏	ミルクサイエンス研究所 技術開発研究室 容器包装開発チーム・主査 (包装管理士) 山住 弘 氏

第4日目 5月22日(金)		
10:00～11:50	13:00～14:50	15:00～16:50
●段ボール包装设计	●環境対応パッケージの現状と今後	●パッケージデザイン概論
1. 段ボール包装设计の手順 (包装设计のポイント・設計に必要な条件)	環境対応包装は、包装業界としては、長年対応し、現在も対応を続けている。EUの包装及び包装廃棄物規則、PPWRが2026年8月12日から施行となる。 日本もプラスチック利用の企業に対してプラスチック再生材料の年間使用量の目標と使用実績の報告の義務付けを行う方向で2026年4月より施行となる。 今後、環境対応包装は、世界の環境対応包装と同様の動きが必要であるが、PPWRに追随するか、それとも半歩先を進むか、我々包装業界には重要な判断である。 本セミナーでは、EUのPPWRのポイント、国内外のPPWR 対応事例、日本から輸出する場合のポイント、今後の方向を具体的な事例で説明する。	パッケージデザインは商品の作り手と生活者を結ぶ媒体であり、問題解決の手段です。 この講義では多くの商品事例からパッケージデザインの特性を紐解きながら、商品コンセプトから一貫したデザインを作るためのポイントを俯瞰して捉えます。 商品価値を高めるパッケージデザインを作り手が協力してつくりあげる、その一助となれば幸いです。
2. 段ボールの寸法設計 (段ボールの種類・寸法設計の原理・基本 伸ばし寸法・0201形の標準加算値)		
3. 段ボール箱の強度設計 (求められる強度特性・段ボール箱の圧縮 強さ推定式・段ボール箱の材質選定方法・安全率について・段ボール箱の材質選定例)		
講師 レンゴー株式会社	講師 住本技術士事務所	講師 武蔵野美術大学
包装技術第一部 東京包装技術第一課 担当課長 (包装専士) 高比良 仁司 氏	所長 (包装管理士) 住本 充弘 氏	造形学部 通信教育課程 教授 福井 政弘 氏

※プログラムの内容は若干変更になる場合があります。